

機能強化計画の進捗状況(要約)

1. 15年4月から16年9月までの全体的な進捗状況及びそれに対する評価

「機能強化計画」における集中改善期間は1年半が経過しました。この間、15年度上期は「リージョンシップバンク」の機能強化に向けて」及び「リージョンシップバンク」の機能強化に関するアクションプラン」の理解、当金庫「機能強化計画」の策定及び全役職員への理解を図り、15年度下期から具体的実践段階に入りました。

15年度下期は様々な施策を実施しましたが、どちらかと言うと制度面整備の色彩が強く、16年度は、施策の実効を上げ、定着化させることを課題としてスタートしました。

15年度下期の施策事項の実効・定着状況について詳細は省略しますが、経営改善指導によりランクアップしたお取引先数が15年度通期9先に対して、16年度上期では27先となったことが施策の実効が上がっていることを現わしていると考えます。

2. 16年4月から16年9月までの全体的な進捗状況及びそれに対する評価

16年度下期の実施事項は「3.」及び「4.」に項目毎に記載してありますが、主要な事項は次のとおりです。

「目利き力」に重点をおいた形での「融資審査要綱」の改訂と研修実施

「ローンレビュー規程」の制定と研修実施

「目利き力養成研修」の実施（取引先企業現場での訪問研修）

中小企業金融公庫との信金連絡会へ出席

静岡大学イノベーション共同研究センターの産学連携コーディネーターを講師として営業店長及びSBC会員を対象とした説明会実施。

中小企業金融公庫担当者による支店長を対象にした創業・新事業支援機能に関する説明会開催。

しずおか産業創造機構の「起業家養成講座」への当庫中小企業診断士の講師派遣。

「せいしんビジネスクラブ」会員と浜松信用金庫の「はましん経営塾」との交流会（ビジネスマッチング）実施

「静岡中小企業支援ファンド“パートナー”」への出資申込み。

「静岡県中小企業再生協議会」へ当庫経営改善支援先についての相談

原則無担保、保証人を原則代表者とした融資商品の発売（「地域活性化支援資金『躍進』」・「創業支援資金『創業』」）

地域事業者応援のための小口・低利・原則無担保の融資商品「ご近所ローン」発売

信金中金の「中小企業信用リスクデータベース」に参画。

「信用金庫取引約定書」の改正について原案策定

「与信取引に関する顧客への説明態勢等の規程」について原案策定

自己査定・引当金に関する規程等の一部改訂

信用リスク定量化の考え方の前進

お取引先別採算制度の中間報告

ディスクロージャー誌への地域貢献情報の記載充実

ディスクロージャー誌への総代会の仕組み・総代のお名前等の記載

主要な実施事項は以上のとおりであり、計画どおりの進捗を果たしていると考えますが、15年度に展開した施策を含め、今後とも実効性向上・定着化へ向けて努力するとともに、新たな施策の展開に取り組んでいきます。

景気は回復傾向にあるとは言え、地域中小企業の経営実態は未だ厳しい状態が続いています。このような環境下において我々信用金庫が地域経済・地域中小企業の活性化のために果たす役割は、更に増しているとの認識の下、計画の着実な実行と実効性向上に努力していく所存です。

(静岡信用金庫)

3. アクションプログラムに基づく個別項目の計画の進捗状況(別紙様式1)

項目	具体的な取組み	スケジュール		進捗状況		備考(計画の詳細)
		15年度	16年度	15年4月～16年9月	16年4月～16年9月	
・中小企業金融の再生に向けた取組み						
1. 創業・新事業支援機能等の強化						
(1) 業種別担当者の配置等融資審査態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・業界動向の的確かつタイムリーな把握のため、融資部と経営相談部とで定期的な情報交換を実施します。 ・また、業界動向について営業店へ情報提供を行います。 ・新規創業に当たっての留意点について営業店担当者への説明会を開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・融資部内で業種別の調査担当者を任命して業界動向調査の体制整備を図ります。 ・融資部と経営相談部で把握した業界動向を営業店に還元します。 ・新規創業のチェックポイントについて勉強会を開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年4月1日に業種別調査担当者を任命し、大口と信先を中心に本部融資申請書の一部業種別審査体制を採りました。 ・業種別調査担当者による融資部内勉強会を開催しました。 ・「融資ポイントマニュアル」「新規創業についてのチェックポイント」を作成し、研修を実施しました。 ・「融資審査要綱」を改訂しました。 ・業種毎の主要お取引先の月別売上高調査を行い、業種毎お取引先毎の業況変化について月別管理体制を構築しました。 ・スーパーマーケット業界・建設業界及び水産加工業界の主要お取引先についてベンチマークを設定の上、お取引先毎の問題点を抽出し、審査に利用しました。 ・業種別研究レポートを上期・下期に作成し、融資部内で情報を共有し、審査に活用しました。 ・融資事後管理の徹底を図るため、「ローンレビュー規程」を制定しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業種別調査担当者による融資部内勉強会を開催しました。 ・16年4月:茶業 ・16年8月:製造業全体 ・16年9月:特定施設入居者生活介護業 ペットショップ ・「融資審査要綱」を改訂しました。(「目利き力審査」に重点)(16年6月) ・「ローンレビュー規程」制定しました。(16年6月) ・「融資審査要綱」「ローンレビュー規程」の説明会を実施しました。(16年5月-対象:部店長・融資役職者) ・業種毎の主要お取引先の月別売上高調査を行い、業種毎お取引先毎の売上高チェックによるお取引先の業況変化を月次管理する体制を構築しました。(金庫経営層にも報告) ・水産加工業界の主要お取引先についてベンチマークを設定の上、お取引先毎の問題点を抽出し、審査に利用しました。 	
(2) 企業の将来性や技術力を的確に評価できる人材の育成を目的とした研修の実施						「その他関連する取組み」として後段の「4」に記載しました。

<p>(3)産学官とのネットワークの構築・活用や日本政策投資銀行との連携。「産業クラスターサポート会議」への参画</p>	<p>・構築済の産学官連携スキームを金庫内およびお取引先に活用を周知していきます。 ・外部プレーンとの関係強化を図っていきます。 ・日本政策投資銀行と必要に応じ情報交換を行います。</p>	<p>・産学官連携スキームの継続。 ・外部プレーンとの関係を再構築します。</p>	<p>・産学交流センターの情報収集をします。 ・産学交流センターを活用します。</p>	<p>・既に産学官連携のスキームは構築済みであり、既存の外部プレーン(公的資格者・大学教官・公的機関等)との関係強化を図りました。 ・東海大学(15年7月)、静岡大学(15年10月)、静岡県立大学(16年1月)等の産学連携体制にかかる説明会に参加し、産学連携担当者とのネットワークを拡充しました。 ・中小企業金融公庫との業務連携強化を目的に覚書を締結、同公庫の産学連携スキームやノウハウを活用できる体制を整えました。 16年4月同公庫と信用金庫(同公庫と覚書締結済金庫)との連絡会を開催しました。以後、定例的な連絡会開催を決定しました。</p>	<p>・16年4月静岡大学イノベーション共同研究センターの産学連携コーディネーターを迎え、支店長等を対象に産学連携に関する説明会を実施しました。 ・平成16年4月中小企業金融公庫との連携に係る信金連絡会(第1回)に参加しました。以後、第2回連絡会(16年5月)及び第3回連絡会(16年8月)に参加し、ノウハウ取得・情報交換を図りました。 ・16年5月せいしんビジネスクラブ(以降SBC)会員に対し、静岡大学イノベーション共同研究センターの産学連携コーディネーターによる産学連携に関する説明会を開催しました。</p>	
<p>(4)ベンチャー企業向け業務に係る、日本政策投資銀行、中小企業金融公庫、商工組合中央金庫等との情報共有、協調投資等連携強化</p>	<p>・既往提携先(JAFCO)との関係強化を図ります。 ・当金庫のベンチャー経営支援のスキームを金庫内およびお取引先に周知していきます。 ・政府系金融機関と必要に応じ情報交換をします。</p>	<p>・ベンチャー経営支援体制を継続します。 ・提携先(JAFCO)との関係強化を図ります。</p>	<p>・15年度と同様の取組みを継続します。</p>	<p>・既存提携先(JAFCO)と定期的な情報交換を実施し、必要に応じて協力体制をとることを確認しました。 ・しずおか産業創造機構等外部機関の要請に基づき起業家養成講座等に当庫中小企業診断士を派遣しました。 (15年度3回、16年度1回) ・16年2月に中小企業金融公庫と業務連携強化を目的に覚書締結し、16年4月には同公庫との連絡会を開催しました。 16年3月に商工組合中央金庫と業務協力を目的に覚書を締結しました。</p>	<p>・16年4月中小企業金融公庫担当者を招き、支店長等を対象とした創業・新事業支援機能に関する説明会を実施しました。 ・平成16年4月中小企業金融公庫との連携に係る信金連絡会(第1回)に参加しました。以後、第2回連絡会(16年5月)及び第3回連絡会(16年8月)に参加し、ノウハウ取得・情報交換を図りました。 ・16年9月しずおか産業創造機構等外部機関の要請に基づき起業家養成講座等に当庫中小企業診断士を派遣しました。</p>	

(5) 中小企業支援センターの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・従来より中小企業支援センターを活用していますが、今後も必要に応じ活用していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ中小企業支援センターを活用します。 ・創業サポートしずおかの定例会議に参加します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しずおか産業創造機構(静岡県中小企業支援センター)中部地域中小企業支援センター等、外部機関との連携を強化、定期的な情報交換を実施しました。 ・しずおか産業創造機構主催の「しずおか新産業技術フェア」に参加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・16年7月中部地域中小企業支援センター主催の地域金融機関連絡会議に参加し情報収集を図りました。 ・16年9月しずおか産業創造機構主催「しずおか新産業技術フェア」に参加・出展し、当庫の経営相談や各種経営支援業務を紹介しました。 ・中小企業経営革新支援法の申請支援を行いました。2お取引先が認可取得、2お取引先が申請中です。 	
2. 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化						
(1) 経営情報やビジネス・マッチング情報を提供する仕組みの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・体制面は整備され活動も活発に行っていることから、今後も現在の活動を継続していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の活動を継続実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の活動を継続実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のツールでの情報提供を継続的に実施、内容についても適宜メンテナンスをしました。 <div data-bbox="1368 651 1626 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「しんきんふれ愛ねっと」・金庫内受発注情報・当金庫発行経済誌(View)・外部提携機関(株)日本情報マート)作製のビジネス、新商品情報・SBC会員向けメールマガジン(月3回) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマッチング情報提供に向けた態勢整備の支援策の一環として、全信協が新たに構築した「しんきんビジネスマッチングサービス」に16年2月に参画ビジネスマッチングネットワークを拡充しました。 ・16年9月当庫SBC会員と浜松信用金庫「はましん経営塾」会員との交流会(ビジネスマッチング)を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月初旬、ビジネス情報として「しんきんふれ愛ねっと(全信協提供)」を全営業店に提供しました。 ・お客さまからの要望に基づき、金庫内受発注情報(ビジネスマッチング、求人・求職等)を全営業店に配信、進捗管理及び結果等のフィードバックを実施しました。 ・当金庫発行の地区経済誌(View)を隔月発行、地区内の業種別動向、各種経営情報等の各種情報を提供しました。(16年度上期3回発行) ・毎月下旬、外部提携機関(株)日本情報マート)作製のビジネス情報、新商品・商談情報を全営業店に配布しました。 ・SBCホームページ受発注情報、SBC会員向けビジネス情報メールマガジン(月3回発行)による情報提供を実施しました。 ・16年9月当庫SBC会員と浜松信用金庫「はましん経営塾」会員との交流会(ビジネスマッチング)を実施しました。 	

<p>(3) 要注意先債権等の健全債権化及び不良債権の新規発生防止のための体制整備強化並びに実績公表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より効果が上がる経営改善手法を検討します。 ・経営改善スキル向上のため各種研修へ積極的に参加します。 ・「静岡県中小企業再生協議会」「しずおか産業創造機構」など外部機関と連携した支援態勢を図ります。 ・ディスクロージャー誌において経営改善支援への取り組み状況・実績などを公表します。 	<p>現在の体制を継続していく他、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営改善に係る金庫内研修 ・経営改善手法の検討 ・全信協の研修への参加 <p>を実施します。</p> <p>また、経営改善支援への取り組み状況・実績についてディスクロージャー誌で公表します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部支援対象お取引先数は次のとおりです。 15年度：66グループ95先 16年度：69グループ100先 ・日銀審査の指摘を受け、経営改善支援業務見直ししました。(16年9月) ・月次管理として、営業店が「経営改善月報」により売上高と利益の計画対実績をチェックする体制を作りました。 ・「財務コンサルタント研修」を継続実施しました。 ・信金中金「中小企業経営改善支援実務研修」に参加しました。(16年3月) ・経営改善指導によりランクアップされたお取引先数 15年度通期：9社 16年度上期：27社 	<ul style="list-style-type: none"> ・16年度本部支援対象先69グループ100お取引先を決定しました。 ・日銀審査の指摘を受け、経営改善支援業務見直ししました。(16年9月) ・月次管理として、営業店が「経営改善月報」により売上高と利益の計画対実績をチェックし、業況が悪化してきているお取引先に対しては経営改善計画見直し等のアドバイスを実施しました。 ・「財務コンサルタント研修」を継続実施しました。 ・経営改善シミュレーションソフトを導入しました。 ・16年度上期に経営改善指導によりランクアップされたお取引先数は27社です。 	
<p>(4) 中小企業支援スキルの向上を目的とした研修の実施</p>	/	/	/	/	/	<p>「その他関連する取組み」として後段の「4」に記載しました。</p>
<p>(5) 「地域金融人材育成システム開発プログラム」等への協力</p>	/	/	/	/	/	<p>後段の「4」に「せいしんビジネスクラブ」を通じた中小企業経営者等の経営管理能力向上への取組みを記載しました。</p>

3. 早期事業再生に向けた積極的取組み						
(2)地域の中小企業を対象とした企業再生ファンドの組成の取組み				<ul style="list-style-type: none"> ・大和証券SMBC主催の「地域再生ファンド」勉強会・検討会へ参加しました。(15年度中3回) ・静岡キャピタル主催の「静岡中小企業再生ファンド」の説明を受けました。 ・「静岡中小企業支援ファンド“パートナー”」への加入契約を締結しました。 ・16年4月23日「静岡中小企業支援ファンド“パートナー”」の設立総会が開催されました。 ・16年5月10日第1回の払込を完了しました。 ・16年6月7日第1号案件が決定しました。 ・16年9月17日第2号案件が決定しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・16年4月23日「静岡中小企業支援ファンド“パートナー”」設立総会に担当常務が参加しました。 ・16年5月10日第1回の払込を完了しました。 ・16年6月7日第1号案件が決定しました。 ・16年9月17日第2号案件が決定しました。 	
(3)デット・エクイティ・スワップ、DIPファイナンス等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・DIPファイナンスについては静岡県信用保証協会の「事業再生保証制度」を利用する取組みについて検討します。 ・DESについては、取組みをしない方針です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DIPファイナンスについて静岡県信用保証協会との意見交換も含めた検討を行います。その結果を受けて保証協会付でのDIPファイナンスの適用を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DIPファイナンスに係るスキーム等についての情報収集しました。 ・静岡県信用保証協会にDIPファイナンスの実態について問い合わせをした結果、16年3月時点では静岡県内での事例はなく、金融機関からの問い合わせも殆どないとの回答を得ました。 ・16年9月まで当庫取扱い実績はありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当金庫お取引先についてDIPファイナンス適用について検討しましたが、見送りとなりました。 	
(4)「中小企業再生型信託スキーム」等、RCC信託機能の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・手法の研究と適用可能性についての検討を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手法の研究と適用可能性についての検討を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全信協主催の「RCCの企業再生機能に関する説明会」に参加しました。 ・現状、対象先はありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集を行い、対象先の検討を行いました。現状、当金庫お取引先に対象先はありません。 	

(5)産業再生機構の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・当面は産業再生機構についての情報収集を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業再生機構の情報収集や再生事例の研究を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本機構を利用した再生対象先があるかどうか検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業再生機構の業務開始(5月8日)に伴い、関連記事等により情報収集を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象先はなく、具体的な進捗はありません。 	
(6)中小企業再生支援協議会への協力とその機能の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・金庫内で同協議会についての説明会を実施します。 ・同協議会との情報交換を行います。 ・お取引先に同協議会の説明を行い、利用可能先について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金庫内で同協議会の説明を行います。 ・同協議会と定期的に情報交換を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お取引先に同協議会の説明を行い、利用可能先について検討します。 ・同協議会と定期的に情報交換を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県中小企業再生支援協議会」を招いて中部4信金の支援担当者会議において同協議会の活動内容等について説明を受けました。(15年6月) ・「静岡県中小企業再生支援協議会」の機能・利用方法等について各支店を臨店して説明を行いました。 ・個別案件の相談を2お取引先について実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県中小企業再生支援協議会」の機能・利用方法等について各支店を臨店して説明を行いました。 ・16年4月営業店部店長・営業役職者・法人開拓担当者を対象に静岡県中小企業再生支援協議会担当者による説明会を実施しました。 ・当庫経営改善支援対象お取引先2社について利用相談を行いました。 ・個別案件について再生手法等についてアドバイスを受けました。 ・再生ファンドを将来的に活用した再生スキームを検討したいお取引先について情報交換を実施しました。 	
(7)企業再生支援に関する人材(ターンアラウンド・スペシャリスト)の育成を目的とした研修の実施	/	/	/	/	/	<p>「その他関連する取組み」として後段の「4」に記載しました。</p>

4. 新しい中小企業金融への取組みの強化						
<p>(1)ローンレビューの徹底、財務制限条項やスコアリングモデルの活用等、第三者保証の利用のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お取引先の事業内容・資金の流れについての理解を進め、キャッシュフローを重視した融資に努めます。 ・ローンレビューについては経営改善支援課と支店長が連携してよりお取引先の理解に努めます。 ・創業時の融資審査においては経営相談部と融資部との協力関係をより一層強化し、担保・保証に過度に依存した融資審査とならないように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュフロー重視のため「試算表」「資金繰表」を重視した審査を行います。 ・経営改善支援課はお取引先の改善計画の進捗状況についてより一層理解するよう努めます。 ・融資部と経営相談部とで連携して業界動向の把握に努め、調査結果を営業店に還元します。 ・事業に着目した融資制度の研究を行います。 	<p>15年度の取組みを継続する他、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコアリングモデルの研究結果を基に活用策を検討します。 ・事業に着目した融資制度の研究結果により商品化可能な場合には対応します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口お取引先の審査において直近の「試算表」「資金繰表」の確認を徹底しました。 ・16年6月「ローンレビュー規程」制定・施行しました。 ・創業案件については、経営相談部との連携体制は構築しましたが、対象案件はありませんでした。 ・経営改善支援対象お取引先に対しては「経営改善支援月報」による月次管理の徹底を図りました。 ・「債務者への説明態勢の整備」W・Gへ出席しました。(融資管理部主管) ・(株)「しんきん情報システムセンター」の個人事業主スコアリングモデルの試験利用を開始し(15年12月)、データ還元を受けました。 ・原則無担保・原則第三者保証人不要の融資商品を発売しました。(15年11月17日発売「せいしん地域活性化支援資金」・「せいしん経営改善支援資金」16年5月24日発売「地域活性化支援資金『躍進』・創業支援資金『創業』) ・小口・低利の原則無担保融資商品「ご近所ローン」を発売しました。(平成16年9月1日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口お取引先の審査において直近の「試算表」「資金繰表」の確認を徹底しました。 ・事後管理規程として「ローンレビュー規程」を制定・施行しました。(16年6月) ・「債務者への説明態勢の整備」W・Gでの検討・部長会審議を受けて「与信取引に関する顧客への説明態勢の規程(案)」を融資管理部主導で策定しました。 ・(株)「しんきん情報システムセンター」の個人事業主スコアリングモデルの試験利用を開始し、(15年12月)当庫信用等级付との比較を実施しました。 ・スコアリングモデルの検討として信金中金の中小企業信用リスクデータベースへの参画を決定しました。 ・今後、データのフィードバックを受けてスコアリングモデルによる審査機能を高めていきます。 ・原則無担保・原則第三者保証人不要の融資商品を追加発売しました。 16年5月24日発売「地域活性化支援資金『躍進』・創業支援資金『創業』) ・小口・低利の原則無担保融資商品「ご近所ローン」を発売しました。(平成16年9月1日) 	

<p>(3)証券化等の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・売掛債権担保融資について理解を深めます。 ・CLOについては、当金庫単独での取組みは行いませんが、静岡県などがスキームを提供すれば、参加を検討します。 ・中小企業の資金調達の多様化について研究を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・融資部内で中小企業の資金調達の多様化について研究を開始します。 ・売掛債権担保融資について営業店に説明会を行う他、お取引先にも利用促進を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県信用保証協会付売掛債権担保融資保証制度」の利用が可能と思われるお取引先について制度利用を営業店に指導しました。 ・15年4月から16年9月までの新規実行は2お取引先でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県信用保証協会付売掛債権担保融資保証制度」の利用が可能と思われるお取引先について制度利用を営業店に指導しました。 ・15年4月から16年9月までの新規実行は2お取引先でした。 	
--------------------	---	---	---	--	--	--

<p>(5)信用リスクデータベースの整備・充実及びその活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信用リスク管理の基本となる倒産確率などのデータは今後とも金庫独自の蓄積は行わず、東京商工リサーチのデータを活用していきます。 ・信用リスク管理の体制整備はある程度進んでいるので、今後は計量化されたリスク量などを如何に業務運営に活用していくかが課題となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信用リスク量を業務運営に活かすためにALM委員会のあり方を検討します。 ・必要に応じ、格付制度・格付別金利について見直しを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「信用格付制度」「格付金利」とも、検討の結果、15年度及び16年度上期の変更はありません。 ・信用格付・信用リスク計量化のベースソフトである倒産確率は東京商工リサーチデータを利用していますが、16年2月にメンテナンスを行いました。 ・ALM運営については15年9月開催時より新しい運営・審議内容としましたが、その1例として計量化した信用リスク量を業務運営に反映させるべく信用コスト率を悪化させない範囲内の弾力的な金利適用について提言しました。 ・日銀審査での指摘及び研究の結果、16年8月のALM委員会より信用リスク計量化の考え方を一部変更しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「信用格付制度」「格付金利」とも、検討の結果、16年度上期の変更はありません。 ・日銀審査での指摘及び研究の結果、16年8月のALM委員会より信用リスク計量化の考え方を一部変更しました。 	
-----------------------------------	---	--	---	---	---	--

5. 顧客への説明態勢の整備、相談・苦情処理機能の強化						
<p>(1)銀行法等に義務付けられた、貸付契約、保証契約の内容等重要事項に関する債務者への説明態勢の整備</p>	<p>・「新しい中小企業金融の法務」、改正事務ガイドラインを踏まえ ・「信用金庫取引約定書」の改訂 ・与信取引に係る説明義務・責任についての態勢・規程・苦情処理態勢について整備をしていきます。また、新態勢について営業店への研修も実施していきます。</p>	<p>・「新しい中小企業金融の法務」の研究、改正事務ガイドラインの検討を行います。 ・与信取引に係る説明態勢の整備を図るべくワーキンググループを立上げて検討を開始します。</p>	<p>・与信取引に係る説明態勢の整備を完了させ、営業店への研修を行います。 ・「信用金庫取引約定書」の改訂を実施します。</p>	<p>・「新たな中小企業金融の法務に関する研究会報告書」の内容及び改正事務ガイドラインについての検討着手しました。(15年8月) ・説明義務に関する規程の検討に着手しました。(15年8月) ・「信用金庫取引約定書」の改訂作業に着手しました。(15年8月) ・態勢整備・規程整備・チェック態勢構築について具体的作業のためワーキンググループ(以下WG)を立上げ、検討会を実施しました。(8回実施) ・WGで検討した「債務者への説明態勢」について実効性を高めるため営業店担当者による検討委員会を開催しました。(16年6月・7月) ・「与信取引に関する顧客への説明態勢の規程(案)」及び改正「信用金庫取引約定書」を策定しました。(16年9月)</p>	<p>・WGで検討した「債務者への説明態勢」について実効性を高めるため営業店担当者による検討委員会を開催し、債務者への説明・保証人への説明及び意思確認について書類の受渡し・確認方法等について意見を求めました。(16年6月・7月) ・改正「信用金庫取引約定書」策定(16年9月)、11月理事会へ報告予定です。 ・「信用金庫取引約定書」改正に伴う「個別約定書」の改正案を策定しました。(16年9月) ・「与信取引に関する顧客への説明態勢の規程(案)」策定(16年9月)、11月理事会へ上程予定です。 ・「与信取引に関する顧客への説明態勢の規程(案)」策定に伴い、関連融資規程の改正(案)を策定しました。(16年9月)</p>	

<p>(2)「地域金融円滑化会議」の設置・開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域金融円滑化会議」への参加を継続します。 ・同会議での他金融機関の事例を基に当金庫の業務改善に役立てていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域金融円滑化会議」への参加を継続します。 ・事例報告を関連部署へ回付し、また研修に活用します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域金融円滑化会議」へ参加しました。 ・事例報告を担当部署へ回覧し、活用を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・16年5月26日「第5回地域金融円滑化会議」資料を関連部署へ回付しました。 ・16年3月より開始した「融資否決(謝絶)案件」につき16年6月より報告フォーマット変更。引き続き全店報告分を関連部署へ回付、内容の検討を実施しました。 	
<p>(3)相談・苦情処理体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情を業務改善に活かすため苦情事例のフィードバックと研修を実施します。 ・苦情処理規程の見直しを定期的に行います。 ・与信取引に係る苦情を意識した規程の変更を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス委員会への苦情事例の報告を行います。 ・店長会議・業務会議を利用して苦情事例のフィードバックおよび研修を行います。 ・苦情処理規程の見直しを行います。 ・与信取引の説明態勢整備のための「苦情処理規程」改正準備を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年度と同様の取組みを行う他、与信取引の説明態勢整備のための「苦情処理規程」の改正を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会及びコンプライアンス委員会開催時に苦情件数、苦情事例について報告しました。 ・店長会議、ブロック会議等において苦情事例及び対応をフィードバック、注意喚起を促しました。 ・新職員を対象に苦情事例及び対応について研修を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・16年5月理事会にて15年度下期苦情受付状況、再発防止策等について報告しました。 ・16年4月コンプライアンス委員会にて15年度下期苦情受付状況、再発防止策等につき報告しました。 ・16年4月・7月支店長会議にて苦情事例及び対応をフィードバックし注意喚起を促しました。 ・16年5月・6月・8月・9月ブロック会議にて苦情事例及び対応をフィードバックし注意喚起を促しました。 ・16年3月より開始した「融資否決(謝絶)案件」につき16年6月より報告フォーマット変更。引き続き全店報告分を関連部署へ回付、内容の検討を行いました。 	
<p>6.進捗状況の公表</p>	<p>「機能強化計画」の計画および進捗状況について半年毎に当金庫ホームページで公表します。</p>	<p>半年毎に進捗状況について当金庫ホームページで公表します。</p>	<p>半年毎に進捗状況について当金庫ホームページで公表します。</p>	<p>・「当金庫機能強化計画」・「15年4月～15年9月までの進捗状況」・「15年10月～16年3月までの進捗状況」について各々要約版を当金庫ホームページに掲載しました。</p>	<p>・16年6月3日に「15年10月～16年3月までの進捗状況」について要約版を当金庫ホームページに掲載しました。</p>	

【以下任意】

各金融機関の健全性の確保、収益性の向上等に向けた取組み					
1. 資産査定、信用リスク管理の強化					
(1) 適切な自己査定及び償却・引当の実施	<p>査定精度向上を目的として規程類の改訂を行う他、お取引先の更なる実態把握ができるよう研修や臨店による指導を強化します。</p>	<p>・自己査定関連の規程・マニュアルの一部改訂を行います。 ・研修・臨店指導を行います。</p>	<p>・15年度と同様の取組みを継続します。</p>	<p>・規程、マニュアル、基準書等について査定精度向上を目的とした見直しによる一部改訂を行いました。 ・庫内研修、全店対象の臨店等による営業店指導の強化について計画どおりに実施しました。</p>	<p>規程・マニュアル・基準書等の見直しによる一部改正の実施 ・平成16年9月30日付「資産の自己査定要綱」「自己査定マニュアル」「償却および引当金の計上に関する規程」「償却・引当マニュアル」の一部改正を行いました。 9月1日に「業務会議」にて一部改正について説明しました。 庫内研修の実施 ・16年7月6日 新任融資担当 役席者対象の自己査定庫内研修を実施しました。 臨店指導 ・仮決算査定に向け、異動による融資役職者交代店舗への臨店指導を16年9月中旬に実施しました。 信用格付による仮債務者区分 検証・精査の日常業務化 ・従来、臨店によって集中して実施していた検証に代えて16年6月から格付申請時に同時に融資管理部にて検証を加える体制とし、実効性及び効率化を高めました。</p>
(1) 担保評価方法の合理性、処分実績からみた評価精度に係る厳格な検証	<p>・今後とも評価額と処分額のデータ蓄積を図っていきます。</p>	<p>・処分額データの蓄積を行っていきます。 ・システム上のバージョンアップが必要であれば検討していきます。</p>	<p>・15年度と同様の取組みを継続します。</p>	<p>・使用中の不動産評価システムについてソフト会社の提案を受け、16年度より「不動産評価の再評価システム」のバージョンアップを行うこととなりました。 バージョンアップにより路線価を基準としたよりスピーディで正確な評価に繋がることが期待されます。</p>	<p>・不動産評価・管理システムのバージョンアップについて16年4月の部長会で承認され、バージョンアップ内容の詳細について詰めを行いました。</p>

(1) 金融再生法開示債権の保全状況の開示	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き保全状況の開示を行います。15年9月期より半期情報開示においても保全状況について開示していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 半期開示を含め金融再生法開示債権の保全状況を開示していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> 15年11月発行の半期ディスクロージャー誌で15年9月期の金融再生法開示債権の保全状況を開示しました。(従来は金額のみの開示) 16年8月発行のディスクロージャー誌「静清信用金庫の現況」において従来は合計の保全状況の開示であったものをリスク管理債権・金融再生法開示債権とも区分毎の保全状況を開示しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 16年8月発行のディスクロージャー誌「静清信用金庫の現況」において従来は合計の保全状況の開示であったものをリスク管理債権・金融再生法開示債権とも区分毎の保全状況を開示しました。 	
2. 収益管理態勢の整備と収益力の向上						
(2) 信用リスクデータの蓄積、債務者区分と総合的な内部格付制度の構築、金利設定のための内部基準の整備等	<ul style="list-style-type: none"> 信用リスク管理についてある程度のインフラ整備は進んでいるので、今後は把握したリスク量の業務運営への活用を如何に図るかに取り組んでいきます。 信用格付制度・格付別金利設定について必要に応じ改善を図っていきます。 お取引先別採算制度の確立を図っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> リスク量を業務運営に活かすため、ALM委員会のあり方を検討します。 必要に応じ信用格付制度および格付別金利設定の見直しを行います。 お取引先別採算制度を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> リスク量を業務運営に活かすため、ALM委員会のあり方を検討します。 必要に応じ信用格付制度および格付別金利設定の見直しを行います。 お取引先別採算制度を試行します。 	<ul style="list-style-type: none"> 「信用格付制度」「格付金利」とも検討の結果、15年度及び16年度上期の変更はありません。 お取引先別採算制度については検討を進め、16年9月の部長会で中間報告を実施しました。 ALM委員会については、審議内容の変更を行い、計量化した信用リスクの業務運営への反映について提言を行いました。 日銀審査での指摘及び研究の結果、16年8月のALM委員会より信用リスク計量化の考えを一部変更しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 「信用格付制度」「格付金利」とも検討の結果、16年度上期の変更はありません。 お取引先別採算制度については検討を進め、16年9月の部長会で中間報告を実施しました。 ALM委員会については、審議内容の変更を行い、計量化した信用リスクの業務運営への反映について提言を行いました。 日銀審査での指摘及び研究の結果、16年8月のALM委員会より信用リスク計量化の考えを一部変更しました。 	
3. ガバナンスの強化						
(2) 半期開示の実施	<ul style="list-style-type: none"> 開示内容の充実を図っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 開示内容の検討を行い、半期開示を充実した形で実施していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 15年度と同様の取組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> 15年11月発行の半期ディスクロージャー誌において計画した追加開示項目を計画どおり追加開示しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 16年11月発行予定の半期ディスクロージャー誌においても15年度に追加開示した項目を継続開示していくことを決定し、準備を進めました。 	
(2) 外部監査の実施対象の拡大等	/	/	/	<ul style="list-style-type: none"> 監査法人「トーマツ」による外部監査を引き続き受けました。 	<ul style="list-style-type: none"> 監査法人「トーマツ」による外部監査を引き続き受けました。 	<ul style="list-style-type: none"> 当面、外部監査については、「監査法人トーマツ」の監査により進める方針です。

<p>(2) 総代の選考基準や選考手続きの透明化、会員・組合員の意見を反映させる仕組み等の整備</p>	<p>・総代選考基準及び総代会傍聴制度についてディスクロージャー誌に掲載します。 ・会員からの意見を広く求め、総代会運営に反映します。</p>	<p>・総代選考基準及び総代会傍聴制度についてのディスクロージャー誌に掲載の準備をします。 ・会員からの意見を広く求めます。</p>	<p>・総代選考基準及び総代会傍聴制度についてディスクロージャー誌に掲載します。 ・会員からの意見を広く求めます。</p>	<p>・総代改選時期にあたり、従来慣例として定めていた事項(勇退年齢等)を内規として明文化し、16年1月の理事会で承認を得ました。 ・16年2月10日総代との懇談会を開催しました。 ・16年5月1日総代150名が選任され、6月23日総代会を開催しました。 ・全信協「業界申し合せ事項」を参考に16年8月発行のディスクロージャー誌へ総代会制度・総代選考方法等を掲載しました。</p>	<p>・16年5月1日に総代150名が選任されました。 ・16年6月23日総代会を開催しました。 ・16年8月発行のディスクロージャー誌に以下の事項を掲載しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>・総代会の仕組み・総代会傍聴制度・総代候補者選考基準 総代の選任方法・総代会の決議事項・総代のお名前</p> </div>	
<p>(2) 中央機関が充実を図る個別金融機関に対する経営モニタリング機能等の活用方針</p>	<p>・当金庫の経営課題を明確にするため信金中央金庫の分析データを有効活用する他、経営相談機能の活用も必要によって図ります。</p>	/	/	<p>・当金庫経営分析資料策定に当たって信金中金が作成した「信用金庫経営効率分析表」を活用しました。 (14年度決算・15年度決算) ・信金中金静岡支店より当金庫経営分析の報告を受けました。 (14年度決算・15年度決算) ・信金中金市場営業部より「有価証券ポートフォリオ分析」の説明を受けました。</p>	<p>・当金庫15年度経営分析を行うに当たって信金中金作成の「信用金庫経営効率分析表」をフル活用しました。 ・16年7月に信金中金静岡支店長より、理事長・常務・経営企画部長を対象に15年度決算分析について説明を受けました。 ・信用コストの考え方について信金中金静岡支店と意見交換を行いました。</p>	

4. 地域貢献に関する情報開示等						
(1) 地域貢献に関する情報開示	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動の内容を検証し、真に地域の方に役立つ地域貢献を目指します。 ・全信協から示された開示例に基づき地域貢献に関するディスクロージャーを充実させます。 ・半期情報開示にも地域貢献に関する事項を記載します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献に関するアンケート調査を実施します。 ・14年度の地域貢献に関する内容を記載した「地域貢献ディスクロージャー誌」を発行します。 ・半期ディスクロージャー誌にも地域貢献の内容を記載します。(15年度上期分) ・地域貢献の内容を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスクロージャー誌に地域貢献に関する情報を記載します。 ・半期ディスクロージャー誌に地域貢献の内容を記載します。(16年度上期分) ・地域貢献の内容を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15年11月の地域貢献ディスクロージャー誌の発行、15年11月発行の半期ディスクロージャー誌への地域貢献情報記載、16年8月発行の2004年版ディスクロージャー誌への地域貢献情報記載(充実)等地域貢献に関する情報開示を積極的に進めました。 ・15年11月～15年12月にかけて「地域貢献に関するアンケート調査」を実施し、当金庫の地域貢献活動の検証を行うとともに、今後の地域貢献活動の参考としました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・16年8月11日発行のディスクロージャー誌「2004 静清信用金庫の現況」において地域貢献に関する情報を記載または従来から記載している項目についても充実させました。(15年度1年間の経営改善指導によるランクアップ数も記載) 	
5. 法令等遵守(コンプライアンス)						
<ul style="list-style-type: none"> ・行員による横領事件等、金融機関と顧客等とのリレーションシップに基づく信頼関係を阻害するおそれがある問題の発生防止 						<ul style="list-style-type: none"> ・「その他関連する取組み」として後段の「4」に記載しました。

4. その他関連する取組み(別紙様式2)

項 目	具体的な取組み	15年4月～16年9月	進捗状況
			16年4月～16年9月
- 1 - (2) 企業の将来性や技術力を的確に評価できる人材の育成を目的とした研修プログラム(目利き研修)の実施。	総合的な融資能力向上に関する研修(庫内)の継続実施。 業界団体(全信協、県協会など)の実施する集合研修への派遣。 上記の受講者が講師となり、庫内研修の実施 民間会社の実施する通信講座導入の検討。 業種を絞り、お取引先企業内での研修(視察)実施を検討。 しずおか産業創造機構への出向者継続派遣。 中小企業診断士の育成。	研修計画に基づき、若手職員を対象とした総合的な融資能力の向上に関する研修を実施しました。(延べ24講座、446名受講)また、業界団体(全信協等)を中心とした外部研修への派遣や外部機関への出向、中小企業診断士の育成にも継続的に取り組みました。 その他、民間会社主催の通信講座の推奨等も行いました。	左記「具体的な取組み」に対応しています。 16年度上期研修計画に基づき、9講座を庫内研修として実施、延べ145名が受講しました。 本期間中、業界団体(全信協等)主催の集合研修への派遣実績はありません。 「財務コンサルタント研修」等を実施しました。 15年12月に民間会社の実施する通信講座受講を斡旋し、現在147名が受講中です。 「第1回 目利き力養成研修」を16年7月に実施し、法人担当者12名がお取引先企業(製造業)3社を訪問、事業現場を視察しました。 15年7月より出向者1名を継続派遣しました。 16年4月より中小企業大学校へ1名を継続派遣しました。
- 2 - (4) 中小企業支援スキルの向上を目的とした研修の実施。	総合的な融資能力向上に関する研修(庫内)の継続実施。 せいしんビジネスクラブの経営研究会(ベーシックコース)への派遣。 業界団体(全信協、県協会など)の実施する集合研修への派遣。 民間会社の実施する通信講座導入の検討。 業種を絞り、お取引先企業内での研修(視察)実施を検討。 しずおか産業創造機構への出向者継続派遣。 中小企業診断士の育成。	研修計画に基づき、若手職員を対象とした総合的な融資能力の向上に関する研修を実施しました。(延べ24講座、446名受講)また、業界団体(全信協等)を中心とした外部研修への派遣や外部機関への出向、中小企業診断士の育成にも継続的に取り組みました。 その他、民間会社主催の通信講座の推奨等も行いました。	左記「具体的な取組み」に対応しています。 16年度上期研修計画に基づき、9講座を庫内研修として実施、延べ145名が受講しました。 15年8月から6月まで職員2名が全6回参加したのに続き16年8月より新たに3名を派遣しました。 本期間中、業界団体(全信協等)主催の集合研修への派遣実績はありませんが、16年5月外部講師による「企業再生セミナー」をしずおか信用金庫と共同開催し、支店長及び副支店長計43名が受講しました。 15年12月に民間会社の実施する通信講座受講を斡旋し、現在147名が受講中です。 「第1回 目利き力養成研修」を16年7月に実施し、法人担当者12名がお取引先企業(製造業)3社を訪問、事業現場を視察しました。 15年7月より出向者1名を継続派遣しました。 16年4月より中小企業大学校へ1名を継続派遣しました。

項 目	具体的な取組み	進捗状況	
		15年4月～16年9月	16年4月～16年9月
<p>- 2 - (5) 中小企業等の財務・経営管理能力向上を支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・せいしんビジネスクラブ(SBC)は2コースの経営研究会を年間6回延べ12回開催して経営者支援・後継者養成に努めています。 ・経営研究会は経営基本を総合的に習得するベーシックコースと幅広く経営管理能力向上を図るアカデミーコースの2コースからなっています。 ・海外視察・国内視察・各種セミナーを通じて経営のクオリティーアップを図っています。 ・各種情報提供を行い、ビジネスマッチングによるビジネスチャンス拡大を図っています。 ・当金庫職員の中小企業診断士が会員企業の求めに応じ個別経営診断を行っています。 	<p>15年4月～16年9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営研究会(ベーシックコース・アカデミーコース)は各コース年6回(期間中延べ18回)実施しました。(偶数月) ・奇数月には各種セミナー・国内企業視察を実施しました。(合計年6回) ・国際化の進展に伴い、お取引先の語学力向上を目的に「実践英会話講座」を2期間に亘り開催しました。(各10回、延べ20回) ・SBC会員企業の人材育成に資するため「新入・若手社員研修」「管理者研修」を実施しました。 ・SBC会員向けに毎月1回、新商品・商談情報、各種ビジネス情報をe-Mail等で発信し、ビジネスマッチングを促す仕組みを継続しています。 ・SBC会員企業からの依頼に基づき、専任中小企業診断士が経営計画策定、経営革新支援法に係る認定計画策定の支援、新規出店、労務等の会員向け経営相談を期間中90件程度実施しました。 	<p>16年4月～16年9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営研究会(ベーシックコース・アカデミーコース)は偶数月に開催、各コース3回(延べ6回)実施しました。 ・SBC会員企業の人材育成支援のため4月に若手社員を対象に「新入・若手社員研修」、5月に中堅社員を対象に「管理者研修」を実施しました。 ・5月に教養セミナーを開催しました。 ・7月にSBC総会を開催。講演会の他、会員相互の懇親及び情報交換を実施しました。 ・9月に浜松方面の視察を実施、先端技術を活用した独自製品の開発により脱下請を果たした企業等を視察しました。 ・毎月1回、新商品・商談情報、各種ビジネス情報をe-Mail等で発信しました。 ・SBC会員向け経営相談も積極的に実施しました。
<p>- 3 - (7) 企業再生支援に関する人材(ターンアラウンド・スペシャリスト)の育成を目的とした研修の実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業界団体(全信協など)の実施する集合研修への派遣。 ・民間会社の実施するセミナーへの派遣。 ・民間会社の実施する通信講座の導入検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業界団体(全信協・地区協)を中心に企業再生等に関する研修講座への派遣実施の他、経済産業省の「事業再生人材育成プログラム導入事業」の一環として実施されたきんざい主催の「事業再生人材育成講座」にも本部担当者を派遣しました。 ・その他、民間会社主催の通信講座受講の推奨等も実施しました。 	<p>左記「具体的な取組み」に対応。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本期間中、業界団体(全信協等)主催の集合研修への派遣実績はありません。 ・本期間中、民間会社主催セミナーへの派遣実績はありません。 ・15年12月に民間会社の実施する通信講座受講を斡旋し、現在147名が受講中です。

項 目	具体的な取組み	進捗状況	
		15年4月～16年9月	16年4月～16年9月
- 5 . 法令等遵守(コンプライアンス)		・規程類の整備、コンプライアンス委員会の開催、コンプライアンス関連議題の理事会への付議 コンプライアンスに係る啓蒙活動(臨店指導・研修等)等を実施しました。	・規程類の整備、コンプライアンス委員会の開催、コンプライアンス関連議題の理事会への付議、コンプライアンスに係る啓蒙活動(臨店指導・研修等)等を実施しました。